



# SQUARE

## MPコミュニケーション広場

人との出会いが大好きな、各分野で活躍している方へのインタビュー。

### SQUARE >>> INTERVIEW

#### 私、人と関わるのが好きです… ①76

**人間関係の狭間にいたからこそ分かる異年齢教育の重要性**

「ごく一般的なサラリーマンでした」  
 営業の仕事を中心に24年間、神戸の洋菓子メーカーで働いていた。当時、小学生のお子さんの学校でPTAの会長をやることになり、今まで知らなかった色々なつながりを知ることになった。

「先生、児童、保護者、地域……子どもの世界を取り巻く大

人達は、こんなにも頑張っているんだなと。次第に子どもに関わる仕事をやってみたくなりました」

そして4年前、「保護者の方と一緒に子どもの成長を楽しみたい」とのことで「保育園ホワイトきゃんばす」を立ち上げた置鮎さん。同園の特徴は異年齢保育というもの。

「1歳児から5歳児の子どもたちが同じ大きな部屋の中で過ごします。年齢が小さい子は大きい子が一緒にいると、憧れて真似して、言葉や運動能力がどん

どん伸びていくんです。例えば、外遊びの時の自転車なんかでも、早い子は3歳ぐらいで補助無しに乗れたりするんです。逆に5歳、6歳の子は、家では一人っ子でも、ここでは弟、妹のような年下の子がいるわけで、そういう子の世話をしてあげたりできるようなんです。オムツまで替えられる子もいるんですよ(笑)。人に対する優しさが身につくんですね」

ヨーロッパでは教育に関しての考え方が進んでいて、この異年齢教育がシステム化されている国もあるとのこと。

実は日本の園長先生達の中でも、この異年齢保育をしたがっている人はたくさんいるという。ただ、その実現が難しいのだ。

「今の幼稚園・保育園の先生は大学を出たての若い20代の先生が多く、たとえば2歳〜6歳ま

での混成のクラスを担任してもらうといっても、スキルの問題ではないんです」

「ホワイトきゃんばす」の場合、少人数と規模の関係もあるが、一部屋に30名いるバラバラな年齢の子どもたちを、園長を含めた、先生5人ほどと一緒に見ているといった形で実現できている。担任制と違って、子どもたちの情報も共有しやすい。

「卒園児もサマーキャンプや運動会などの行事に招待して参加してもらおう。園児にとってもより幅広い年齢層との交流機会が持てるわけです。当園はシヨップینگセンター内という立地もあって、卒園児も頻繁に園に顔を出してくれるんですね。保護者の方も含めて、「ホワイトきゃんばす」に関わった人達同士、支え合っていけたらと思っています」

(ライター/今井理)

**大切な幼児期にタテの人間関係 社会性と他人を思いやる優しさを**

「昔前は学校や幼稚園が終わると、近所で一緒に遊ぶ友達、必ずしも同じ歳の子ではなかった。未熟だがいい意味での上下関係もあって、上の子は年下の子を率いて遊びに興じていたものだ。子どもの減少や一人遊びの増加などで、そういった社会関係を築きにくい今の子どもたちの「小さな社会」がここにある。



保育園ホワイトきゃんばす 園長  
 おき あい しゅん い ち  
**置鮎 俊一**さん

神戸の洋菓子メーカーの営業職を24年勤める。PTA会長の経験から、子どもたちや学校、保護者、地域と深く関わり、次世代を担う子どもたちの将来に関わる仕事をしたいと、保育園の立ち上げに至る。著作として、「一杯のチョコレートから子どもたちの笑顔へ」(ギャラクシー出版・アマゾンオリジナル)がある。また、保育園ホームページでは、「おやじ園長のブログ」を毎日更新中。



1歳児から5歳児までの子どもたちが同じ空間で遊び学ぶ。クラスメイトというより、兄弟や従兄弟のような感覚でお互いを慈しむ心が生まれる。

保育園ホワイトきゃんばす  
 TEL048-625-0411 FAX048-625-0411  
 ⑤ 埼玉県さいたま市西区三橋6-607-13  
 イオン大宮西店3F  
 通常保育時間 / 8:00 ~ 18:00  
 延長保育時間 / 7:30 ~ 8:00、18:00 ~ 20:30  
 休園日 / 日曜日・祝日  
 http://www.whitecanvas.info